

山梨県にある聖徳太子の史跡

中学校社会科「古代国家の成立」の単元の発展学習として、かいじあむ歴史かみしばいを授業の中で使用し、聖徳太子と山梨の関係についての授業を行った。聖徳太子にまつわる史跡が県下各地にあるので、それを取り上げるにより地域の歴史に対する興味・関心を高め、授業後に生徒達が県下各地にある聖徳太子にまつわる史跡を見学したり、県立博物館にある聖徳太子関係の展示を見学する契機になればと思い、本題材を設定した。

事前

歴史学習の一環なので、特に事前学習はない。

授業の流れ

県立博物館特別展『祈りのかたち』図録にある仁勝寺の聖徳太子像などの写真を使って、聖徳太子の名前を答えさせる。



聖徳太子の行った仕事についてワークシートに記入させる。



かいじあむ歴史かみしばい「甲斐の黒駒に乗った聖徳太子」を見せ、誰が何をしているのか答えさせる。



甲斐の黒駒に乗った聖徳太子が富士山に登り、信濃経由で3日で帰ってきたという資料を読ませる。



山梨県にある聖徳太子に関係する史跡(寺院、石など)を資料から読み取らせる。



県立博物館の常設展示の中にも聖徳太子と甲斐の黒駒についての説明(パネル等)があることを話す。

歴史かみしばい



聖徳太子の伝記を描いた『聖徳太子絵伝』(茨城県上宮寺 蔵)の図中には、太子が甲斐の黒駒にまたがり富士山を飛び越えるシーンがある。

事後

歴史学習の一環なので、特に事後学習はない。

一言

山梨県に聖徳太子が来たという伝説があることを知って、生徒達は驚いていた。地域の歴史に対する興味・関心を高めるためにも、授業の中で山梨県の歴史や人物についても触れていく必要がある。聖徳太子以外にも山梨県に来た教科書に載っているような人物が来ている(または伝説がある)ので、それらの人物に関する史跡や県立博物館の展示内容について、少しでも多く取り上げていきたいと思う。
(玉幡中学校 武井 晴彦)